

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人室蘭工業大学

1 全体評価

室蘭工業大学は、①国際的に通用する理工系人材の育成、②科学技術の知の創造と学術研究の推進、③北海道地域の中核拠点として、地域の活性化と発展に寄与すること等、3つの目標を掲げている。第3期中期目標期間においては、①において学士課程では創造的な科学技術者、大学院博士前期課程では高度な科学技術者、博士後期課程ではイノベーション博士人材を育成すること、②において航空宇宙機システム分野及び環境分野を中心にものづくり産業と学術研究を推進し、その成果を世界に発信する知の創造の拠点を形成すること、③において自治体や地域企業と多分野にわたる産学官金の連携を進展させ、地域が必要とする人材を輩出することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、国際共同研修プログラムを創設し、これまで派遣実績のなかったモンゴル及びマレーシアの学術交流協定校へ派遣することにより派遣留学を拡大するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- AI技術と従来型の専門をカップリングする形で地域課題解決を目指す分野複合的な研究の実施や多様な課題とその意義がある程度早い時間スケールで変化することに対応できる柔軟な研究体制の必要性から、平成30年10月に社会連携統括本部の中に地域協働機器センター（Creative Collaboration Center）を設置している。当該センターは「地域協働AIラボ」「地域協働分析機器ラボ」等により構成されており、ラボの見直しは3年ごとに実施し、柔軟な研究体制を維持することとしている。（ユニット「地域課題に対応する研究の推進」に関する取組）
- 大学が有する海外学術交流協定校との学生間研究交流及び文化交流を推進し、協定校交流を活性化させるために平成30年度から「海外学術交流協定校活用による国際共同研修プログラム」を新たに創設し、学術交流協定校（チェンマイ大学・泰日工業大学：タイ、工業技術大学：モンゴル、トゥンク アブドゥル ラーマン大学：マレーシア、国立台中科技大学：台湾）に学生17名を派遣しているほか、若手研究者派遣事業を活用して、レアアース等重要原料に係るエネルギー革新拠点に選定されているエイムズ国立研究所（米国）に教員1名を派遣する等、協定校との学生レベルでの交流や教員の海外派遣等を通じて、国際共同研究の推進に取り組んでいる。（ユニット「国内最高水準の研究拠点形成」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載18事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ クラウドファンディングによる研究費獲得等による外部資金比率（寄附金）の上昇

ものづくり基盤センターにおいて、高い加工技術を有する室蘭市の企業とともにスケルトン用国産ソリ開発を目指すクラウドファンディングによる寄附を募集した結果、目標金額を大幅に上回る約307万円（目標金額200万円）を受けるとともに、同窓会との連携強化といった取組を積極的に推進した結果、平成30年度における寄附金にかかる外部資金比率は約2.7%（対前年度比約0.9ポイント上昇）となっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 派遣留学の拡大

平成30年度に国際共同研修プログラムを創設し、これまで派遣実績のなかったモンゴル及びマレーシアの学術交流協定校へ4～6日間の研修期間で17名を派遣している。このプログラムでは8万円を上限に旅費を支援しており、より短期間の留学を希望する学生のニーズに対応するプログラムとなっている。さらに、JASSO協定派遣プログラムで5名、短期語学研修プログラム（5プログラム）により38名派遣し、派遣学生数は合計61名となり、平成33年度までに達成する目標である60名派遣を早期に達成している。